

## 教育インストラクター育成研修の評価

キーワード：指導者、後輩看護師指導、研修評価

○倉ヶ市絵美佳<sup>1)</sup>・中寫真知子<sup>2)</sup>・曾我典子<sup>2)</sup>・笹川寿美<sup>3)</sup>・山本容子<sup>3)</sup>・橋元春美<sup>2)</sup>京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター<sup>1)</sup>京都府立医科大学附属病院<sup>2)</sup>京都府立医科大学医学部看護学科<sup>3)</sup>

【目的】平成 22 年から新人看護職員の研修が努力義務化され、質の高い看護実践と新人看護職員に対する適切な指導を展開できる人材育成が求められている。

A 大学では、看護部と看護学科が協働で行っている教育プログラムの開発の中で、看護基礎教育から卒業 3 年目までの後輩育成に携わる（授業、研修に参加して実践的な指導を行う）教育インストラクター育成研修（以下、研修）を企画し、平成 23 年度から実施した。研修内容とその評価から、今後の課題を明らかにする。

## 【方法】

## 1. 研修の実際

学習目標は、1) 看護部の教育方針・体制が理解できる、2) 教育インストラクターの役割が理解できる、3) 基礎教育・新人看護師の臨床能力の現状と課題を理解できる、4) 指導に必要な基礎知識・スキルを学ぶことができる、とした。内容は、講義と演習で組み立てた（表 1）。研修前には、授業・研修の担当者と打ち合わせを行ったうえで参加した。

表 1：研修内容

時期	時間	方法	内容
6月	1日	講義	看護部の教育体制、教育インストラクターの役割とプログラム 新人看護師の臨床実践能力の現状、学生の臨床実践能力の現状 基礎教育の現状 成人学習者の特徴、指導の基礎知識・スキル（ティーチング・コーチング）
7月	半日	演習	看護学科2年生の治療援助論「検査時の援助技術（演習）：採血法」 ：ひとりか2ベッドを担当し、演習時に指導を行う
9月	半日	演習	看護学科3年生の領域前実習前の客観的臨床能力試験に評価者として参加する ：看護学科の教員と一緒に学生の評価および学生にフィードバックを行う
10月	1日	演習	卒業3年目の看護師の客観的臨床能力試験の評価者・模擬患者として参加する ：看護学科教員および師長と一緒に評価・フィードバックを行う ：フィードバックの進捗を管理する
11月	半日	演習	看護学科4年生の授業「看護の統合と実践」に指導者として参加する ：デモストレーションを実施する ：演習時に指導を行う

## 2. 調査方法

対象：研修に参加した A 病院の看護師 7 名で、経験年数は全員 10 年以上であった。データ収集期間：平成 23 年 6 月～11 月。方法：1) 各研修が役立つものであったか、研修に対する意見、2) 全研修終了後に学習目標・教育インストラクターの役割と研修内容の妥当性について、アンケート調査をした。

【倫理的配慮】調査時、対象者に調査の協力は自由意志で同意しなくても不利益を被らないこと、個人情報保護について説明した。無記名自記式調査票を配布し提出をもって同意を得たとした。

【結果】調査票の回収率は 100%であった。

1. 各研修の評価：講義は、良い 85.7%、まあまあ良い 14.3%で、理由は「学生・新人看護師をよく理解できる内容であった」等であった。看護学科 2 年生の演習への参加は、大変役に立つ 14.3%、役に立つ 85.7%、看護学科 3 年生の OSCE への参加は、大変役に立つ 14.3%、役に立つ 57.1%、無回答 28.6%で、理由は「学生の現状を知る機会となった」「看護学科教員のコメント、学生への接し方が参考になった」であった。看護学科 4 年生の授業への参加は、大変役に立つ 57.1%、役に立つ 42.9%で、理由は「看護学生 2 年生、3 年生との違い、成長を知ることができた」であった。院内 3 年目の OSCE への参加は、大変役に立つ 85.7%、無回答 14.3%で、理由は「部署だけでなく、全体的なレベル把握につながった」であった。

2. 全研修終了後の評価：学習目標と研修内容の妥当性については、到達できるものであった 29.0%、まあまあ到達できるものであった 57.0%、どちらともいえない 14.0%で、理由は「指導に必要なスキルを身につけることは、困難である」であった。役割と研修内容の妥当性については、妥当である 29.0%、まあまあ妥当である 71.0%で、理由は「様々な段階の学生やスタッフのレベルを知ることができた」「もっと実践をする機会が必要である」であった。

【考察】看護学科の授業に参加し、看護学科教員の学生との関わりをみるなかで、指導について学ぶことができていた。また、全体を通して役割に応じた研修内容であったと評価しており、看護基礎教育からの段階的な看護臨床能力の現状把握にはつながり、看護師が授業、研修に参加して実践的な指導を行うための研修内容であったと評価できる。一方、指導に必要な基礎知識・スキルについては、数回の研修で身につくことは困難であると考え、学ぶことを目標にしていたが、研修に参加した看護師は、実践できるレベルの習得を期待していたと思われる。今後、経験を積むことにより習得していくと思われるため、継続的に評価をし、指導者としての成長を支援していく必要性が示唆された。本報告は、文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。